

札幌帝國大學

八田三郎様

侍史

大坂西區南堀江通

二丁目

勝平鼎





B

1



三月廿七日祝

九段にて

八田父上様

仰せに

夫是を浴びる父子二人を載
せし汽車は只此處に西に去り
昨夕八時半大坂に著しPーい
館にて我が少なき足跡をもとの
郵便驛頭に印してより更に
本年其る三月を流を終る
新生活其基礎の確立を見
あし抑理一掃還し欠し
みと家庭の人に復り得る

おと
感慨あかく不沙

きかは便郵
天日をおし
CARTEL POSTALE

末に曾て見ざりし女の

歡びを両親及び祖母に人る

そ得たるものは唯だ感涙あり

のみにけだむ健康囉の標

快ふり体温も亦熱脈も亦調

えんえんとして旺盛にけだむ

何事や体神致也

是は不取敢た之に復少く

仰通信の申上

氣候不順の折に自愛を

祈りつゝ

鼎一白

晴夕露工所も有る

承せ書到若一先下候に

し